



森のなかま

2017年11月号

NO. 115 (継続260号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 Tel.046-297-0301・Fax046-297-0302

「NPO法人かながわ森林インストラクターの会」は
こんな活動を行なっています！！

森林(森づくり)

植樹や下草刈り、枝打ち、間伐などの作業指導を行うとともに、森の手入れの意義や森林の機能についての解説を行います。また、豊かな森林づくりのための整備活動を行っています。



自然観察

森を探訪しながら、森林の機能やそこに生息する生き物の生態および人との関わりについて解説し、森の楽しみ方を案内します。県内各地で自然観察会や「森林探訪」を開催しています。



森林文化

森からのめぐみを使った木工・クラフト・紙すきなどの製作指導や中山間地域に培われてきた伝承文化、民俗、自然との共生の知恵を学ぶお手伝いをします。



普及啓発

森林の大切さを県民に伝えるとともに、市町村、学校、企業、団体等の森林・林業に関する各種イベントや学習講習などの開催についての企画や推進の支援をします。



森林癒やし

森の中で五感を使った散策などを通し、森林が人の心や身体に及ぼす働きを体験できます。心身の疲れを癒やし、健康でこころ豊かな生活ができるようお手伝いします。



やどりき事業

会の活動拠点。529ヘクタールのやどりき水源林をベースに森林整備、自然観察、森林癒やし、森林文化などの活動を行っています。水源林を巡る「森の案内人」や「成長の森の案内人」を行っています。

水源林の河原



ムササビ



成長の森の案内



水生生物観察



森の案内



他にも ・学校や企業等からの派遣要請等の対応を行っているネットワーク活動や
・日本触媒湯河原万葉の森 ・住友三井オートサービス 等の事業活動もおこなっています。

森林部会 平成29年度 『間伐研修会①』

日時 H29年9月10日(日) 8:50~15:30 晴れ

場所 南足柄市塚原ボランティア林(林道足柄線)

(記 森林部会 大橋 聡 11期) (写真撮影&キャプション 滝澤氏⑤)

- 講師: 森林部会有志 L&1班:大澤⑩ 2班:戸谷⑥ 3班:石川⑫ 4班:松永⑪ 5班:佐藤⑤
- 当日スタッフ: 森林部会 部会長:滝澤⑤、大橋⑪、北村⑬
- 参加者: 佐藤①、國分③、富樫⑥、辻村⑨、内野⑨、小笠原⑩、松山⑩、上宮田⑪、湯浅⑪、松本⑪、宇田川⑬、松石⑬、國弘⑭、立花⑭、牧石⑭、木村⑭、岩田⑭、水野⑭

○ 研修スケジュール:

- 8:50~ 9:10 オリエンテーション.
- 9:10~12:00 現場へ移動、各班に分かれて実習.
- 12:00~12:30 昼食 12:30~14:30 実習再開.
- 14:30~ 移動 道具清掃と返納. 14:50~15:30 意見交換・講評/解散.

- 資料: 「間伐作業マニュアル」(Ver.2) ・ 安全チェックシート(間伐)
- 参考: 間伐結果(本数は目的ではないが) 合計27本(ヒノキ径15cm前後)



開始前のミーティング(班毎)

今年度最初の森林部会主管の間伐研修を実施しました。研修の目的は、滑車やフェリングレバー、3倍力等を使った掛り木処理も想定しての基本的な技量の向上とマニュアルに則った作業指導の要領や安全への配慮を習得することです。

実施前のオリエンテーションでは、大澤主任講師から研修の目的と実習内容をご説明頂き、「ベテランの方もいらっしやるとは思いますが…」の後「今、自分のことだと思った方こそ今回の研修をきちっと受けて頂きたい」との厳しくもニヤッとさせる大澤節に、緊張した場もリラックスした雰囲気変わったの活動開始となりました。

現場では、選木から始まり足場の確保と整備、伐倒方向決めと退避方向や危険区域の確認、正確な受け口・追い口・ツル(弦)の残し方、掛り木への事前の備え(ロープ掛け等)と対処法、伐倒後の処理手順に至るまで、全ての工程において参加者一人一人が自ら考え、作業方法や注意点等を共有・確認しながらの実習を行いました。



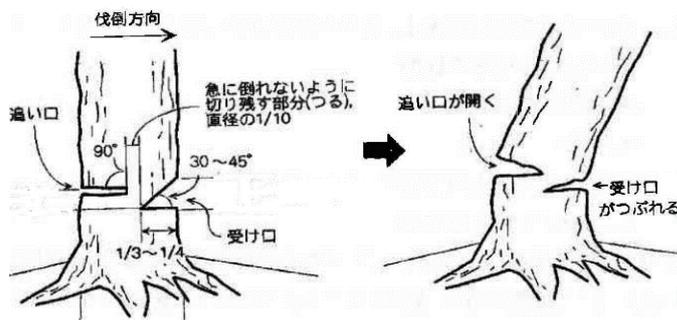
倒す方向を決める



ロープを掛ける



受け口を作る



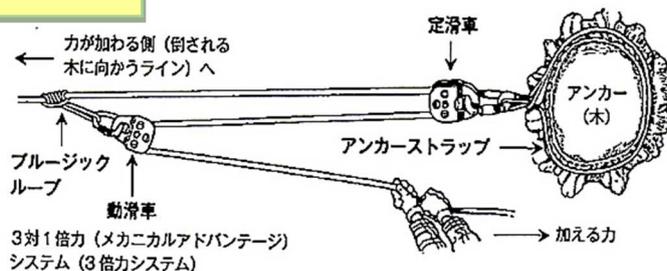
終了後、各班代表者から実習したことを発表して頂き、講師からの貴重な意見も加わって全員で実習成果の共有化を図りました。

参加者からは、今回初めて一人で1本を間伐することができ自信になった。プルージックを使った3倍力やねじ結びを覚えたとの報告の他、小学生対象の指導には特にノコギリ(鋸)の使い方を正しく教えること、受け口を伐る時(斜め伐りにおいても)は常に体の正面で鋸を引き、伐り進むと共に体も横移動する位置が重要、更にはカラビナ等の加重表示は海外と日本で異なる場合があるので注意が必要等々、日頃の疑問に答えて頂いたことと新たな技術を習得できたことで指導における迷いが無くなったとの意見までありました。

皆さんとの意見交換を通じ、今後の指導にも繋がる実りある研修となった事を実感することができました。



3倍力を使ってみる



フェリングレバーを利用



伐倒後の確認



枝払い・玉切り



森林探訪 【共催】 **かながわトラストみどり財団**

【森林探訪申込先】 往復ハガキにイベント名・参加者全員の氏名・住所・電話番号・年齢を記入し、〒252-0332 相模原市南区西大沼1-25-4 内野ミドリまで (☎042-758-5058)
かながわ森林インストラクターの会 自然観察部会

12月2日(土) 初冬の大磯・鷹取山と霧降の滝
8時40分～ 15時30分
【講師】 NPO法人 かながわ森林インストラクターの会
【集合】 JR東海道線 平塚駅 東口改札前 (中央改札)

【コース】 平塚駅⇒☉⇒生沢～鷹取山～ゆるぎの丘～霧降の滝～松岩寺⇒☉⇒平塚駅 雨天決行
◆タブノキやスタジイなどの巨木が広がる鷹取神社や湘南平、霧降の滝を巡ります。

80人(先着順)
受付: 10/1～11/25

会員 500円
一般 1,000円



ヤマカガシ情報 「 ヤマカガシ（山棟蛇） に注意 」

引用:各所・各新聞社記事(兵庫、日経、朝日、毎日、産経 等)、環境省等のホームページ等より

＜資料等まとめ:広報部＞

今年問題になった危険生物で9月号はヒアリ、今回は冬眠前に活動が活発になる過去事例が少ないヤマカガシの事故について調べました。(マムシより血清対応ができる病院が希少です。)

かつて水辺や田んぼに広く生息していた「ヤマカガシ」。今年7月には福岡県と兵庫県で小学生の男児がかまれ、血清治療で回復したが、その血清がなくなるかもしれない。毒へびだという事を強く認識させられた。自然環境の変化による個体数の減少で製造に必要な毒を集めるのが難しい上、事故も少なく重症化することはまれで、採算性の低さも要因だという。

「ほかのへびよりも血清の効果は高いのに受傷例が少なく、血清を製造しても採算が取れない」。日本蛇族学術研究所(通称へび研、群馬県太田市)の研究者は頭を抱える。

1984年(S59年)に愛知県で中学生が死亡し、遺族が研究費を寄付してくれたことが契機だった。2000年には国立感染症研究所などと共同で再び開発し、化学及血清療法研究所(化血研、熊本市)で再製造された。現在使用されている血清は17年前のもの。毎年検査で効果は確認しているが、経年劣化を考えると再製造は不可欠だ。

血清を作るにはヤマカガシ数百匹を捕獲して毒を採取しなければならない。しかし、環境変化で餌のカエルが減少し、ヤマカガシそのものが減っている。

中国産のヤマカガシで代用する研究もしているが、研究費不足などから思うように進んでいない。「薬を作るのは時間もお金もかかる厳しい状況」だそうです。

ヤマカガシは、餌であるヒキガエルの毒を備蓄し餌をとるときに使います。また、毒牙がかなり口の奥にありガッツリ噛まれない限り大丈夫であった事から、毒蛇だと認識されない事もあったようです。



ヤマカガシの牙 口の奥にある毒歯
(日本蛇族学術研究所)



驚愕のシーン
アズマヒキガエルを捕えたヤマカガシ
愛川ふれあいの村高取山登山道にて
(伊藤さん⑦H24.10.5.撮影)



参考 マムシ
(杉崎さん⑩H27.11.07.撮影)

マムシ、ヤマカガシに咬まれてしまったら

・まず何より大事なことは落ち着くことです。パニックになると冷静な判断ができませんし、血流が早くなって毒が早く回ります。とにかく落ち着きましょう。また、『咬まれたけど平気そうだ』なんて考えずに、毒が入ってしまったとして行動するべきです。ヤマカガシの毒は自覚症状が出る迄には時間がかかります。自覚症状が出た時では処置が難しくなります。

・まずは咬まれたへびの確認。(デジタルカメラを持っていたらへびの姿を撮る事も有効)咬まれて振り払ったときにはすでにへびは逃げ始めていると思われるので難しいかもしれませんが、もしそのへびがヤマカガシ(もしくはマムシ)であるとはっきり判断できたなら、その後の処置が非常にスピーディーになります。

・次に毒の吸引と救急車要請。

吸引器(ポイズンリムーバー)を持っていればそれを使いたいところですが、携帯している人は少ないでしょうが、最近ではハチ対策で持っている人が多くなっています。しかし毒は、素人が口を使って吸い出すことは推奨できません。流水で洗いながら血を絞り出すやり方で、少しでも毒を体外に追い出しましょう。後の症状が軽くなります。

さらに咬まれた場所から10cmほど心臓側の位置をタオルなどで強く縛ります。完全に血流を止めてしまうと、かえって良くないので、指1本入るぐらいの余裕を持って縛りましょう。

・そして病院へ向かってください。毒を受けているかどうかは病院で判断してもらえばいいことです。面倒くさかったり、恥ずかしかったりして判断を誤って命を落とすのは非常につまらないことです。

参考:神奈川県ではマムシ用抗蛇毒血清は県立足柄上病院、厚木市立病院にあります。ヤマカガシ用は?

活動短信

今回の掲載は平成29年8/19～9/9です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。



フリーイラストより



蒙霧升降 8/18～8/22頃
もうむしようごう
深い霧が立ちこめる
第三十九候 立秋 未侯

草露白 9/7～9/11頃
そうろしろし
草の露が白く光る
第四十三候 白露 初侯

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。

写真もあれば1枚添付ください。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、**看** 看護師

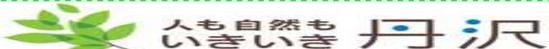
スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター(○数字:期) **研**:研修枠

以下の本文を概ね400字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェック
をお願いします。(執筆者もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。



丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会の
ホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>

◆ 県立21世紀の森・森づくり

「竹林整備と流しそうめん①」

日 8月19日(土)10:00-13:00、晴れ

場 南足柄市内山 県立21世紀の森

参 29名 (大人15名、子供14名)

スタッフ 21世紀の森 杉崎所長、辰巳副所長

イ L村井⑨、小沢⑨、立花⑭

昨日まで続いた雨も上がり晴れて活動が出来る。21世紀の森へ到着後、流しそうめん竹樋を確認する。作業道具を準備し、打合せを済ませ参加者の到着を待つ。

10時から研修室へ集合しオリエンテーリング、辰巳様から挨拶と竹林のかんあきら説明を受け、インストラクター一紹介後、倉庫前に移動道具携行し作業の説明を受けて

竹林に入る。班に分かれ竹の伐倒、枝払い、玉切り作業を体験。初体験者は鋸使いに慣れるまで慎重作業でしたが慣れてからは笑顔も出ました。

子供達も両親と一緒に枝払いや玉切り作業を行い、終わる頃は家族チーム作業が出来、楽しめた。

11時40分作業が終わり下山、倉庫前に戻り道具の清掃をして終了。

12時から食事、木工館前の広場にセットされた流しそうめん竹樋の両側に並び辰巳様のかんあきら説明後、流しそうめん始める。最初は箸に麵がかからず上手取れない、途中から色付きそうめんを混ぜたら麵が良く見えて取れる。子供達も箸の使い方に慣れ取れるようになり全員で麵取りと美味しさを楽しんだ。用意した麵は完食。

13時研修室に戻り、今日の感想を聞いて終了挨拶とした。活動は怪我その他事故無く終了出来、神奈川県立21世紀の森を後にしました。

(記 立花 康美 ⑭)

「竹林整備と流しそうめん②」

日 8月20日(日)10:00～13:00、曇り

場 南足柄市内山 県立21世紀の森

参 22名(大人11名、子供11名)

スタッフ 21世紀の森 杉崎所長 辰巳副所長
平井様 荒木様

イ L村井⑨、小沢⑨、蘭田⑬

今年の夏は雨が多く当日も天候が危ぶまれたが、朝は小雨時々曇であったが徐々に雨はあがった。

参加者は、受付を済ませて10時には研修室に集合し、辰巳副所長から今日の作業についてのレクチャーがあり、杉崎所長の挨拶の後、倉庫前に集合する。

ヘルメットを着用し竹挽き鋸、保護メガネを装着、村井リーダーから鋸の使い方、竹の切り方の指導があり、いざ現場に向かう。

参加者全員が竹林整備は初めてとのことで、取り掛かりは腰が引けている方が多かったが1本2本切るうちに次第に夢中になって、終了時間が近づく頃には見違えるほど上達し手入れが進み、終了の声掛けをすると名残り惜しそうな親子もおられました。

倉庫前に戻り、鋸の掃除をして装備を返却し、皆が楽しみにしていたそうめん流しの場所へ移動する。

そうめんを流すのは辰巳副所長の役で、先ずは子供たちが挑戦する。拙い箸使いで歓声を上げながら一生懸命

そうめんを捕まえる。流れる樋の前を占領している子には、辰巳副所長から「そうめん取ったら5歩下がる」の掛け声が掛かり皆で順番に鱈腹(たらふく)食べられました。その後、大人たちもご相伴(しょうばん)に与かり、スイカの差し入れも美味しく頂きました。

最後に研修室に再度集合し、21世紀の森杉崎所長、インストラクターの挨拶がありアンケートを提出して頂き終了となりました。

(記 藺田 栄哉 ⑬)

◆ 鶴の子会 やどりき水源林体験学習

日 8月20日(日)10:00~14:30、曇り

場 やどりき水源林

参 131名(小学生54名 保護者51名)

スタッフ 西川様ほか 計26名

イ L山下⑪、宮本④、若林⑦、草野⑧、波多野⑨、
宮下⑩、上田⑩、湯浅⑪、福島⑪、真部⑬、
笠原⑭、小林⑭、藤井(世)⑭

前日は雨が降っていたが、当日曇りでどうにか天気は持ちこたえてくれた。沢の様子は、前日の雨で流れが速く水が冷たくなっており、沢歩きには適さないと判断し、清流ウォーキングをBコースのトレッキングに変更。水生生物の観察は、場所を後沢に変更した。

10時からの開会式では、活動が安全にできるように八幡宮にお参りしてからきたと話されていた。数日の長雨で足場が悪いのでインストラクターからも、安全目標「すべるぞ！注意」と呼びかけた。



Bコースは、立ち止まるとヒルが忍び寄るので説明も難しくついつい早足になってしまった。巨木林ではムササビ・モモンガのすみかの穴の有る事を話しながら歩いた。

水生生物の観察は、後沢での活動で採集物が取れるか心配したが、ほとんどの生物が採集できて子どもたちも満足できたようでした。

沢の状態でプログラムの変更があるなど、ヤマビルの対応もスタッフと連携をとりスムーズに運営でき、子供たちに多くの思い出が出来たと思う。

(記 藤井 世枝巳 ⑭)

◆ 三菱重工業株式会社 森づくり

草木染め、水生生物観察、丸太切り、森林癒やし体験

日 8月26日(土)10:00~14:00、曇りのち雨

場 やどりき水源林

参 46名(大人24名、子ども22名)

スタッフ 松崎様、小川様、野村様

県 大西様

イ L山下⑪、若林⑦、白畑⑦、草野⑧、吉田⑩、
福島⑪、真貝⑪、宮下⑩、斉藤⑬、笠原⑭

8月に入って雨の日が多く、ようやく寄沢の水量も多くなり水不足も解消されたようだ。真夏日の1日と思いきや、雲行きが怪しくなり、午後からは残念ながら雨が降り出してしまったため午後の活動は中止となった。

そんな天気急変を予想して、到着後早々に全体での大西様の挨拶、双方の顔合わせ、水源林の保全活動の意義、森林癒やし効果、ヒル対策と水分補給等の安全管理の説明、準備体操を行い、先に写真撮影を済ませた。

草木染めでは、ヤシヤブシ、コアカソを採取し、鉄・銅・チタンの媒染液につけて絞ったバンダナの文様が見事なコントラストに仕上がった。

沢歩きでは、やどりき沢を集会棟前からタカナシ癒やしの森の堰堤前まで行き、少し戻って「木伝導」を行った。林道から集会棟までを散策したあと、滝郷の滝まで行きマイナスイオンを浴び癒やし体験を充実させた。

癒やし体験コースでは、延寿の森で寝転んで樹幹の揺らぎを感じた。タカナシ癒やしの森にて、ハンモック体験・木伝導を通してゆっくり森林安息を体験していただいた。

水生生物観察では、水量も丁度よく種類も多く採取できたので、その特徴等を観察できた。

集会棟横にて、丸太切りをした木に、焼印を刻印して、記念の作品とした。最後にちびっ子の活躍によりスイカ割り親睦を深め、無事活動を終了することができた。参加者の癒やし効果が明日への活力へとつながるよう願っている。

(記 山下 剛史 ⑯)

◆ 県民参加の森林づくり 除伐

日 8月30日(水)8:30~14:00、曇り

場 相模原市緑区青根(学校林)

参 40名

財 豊丸課長、鳥海様 看 小林様

(用具配備) 津久井郡森林組合

かながわしずくちゃんホームページは下記URLで見ることができます。



<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f530038/p780119.html>

スタッフ 相模原市まち・みどり公社

学校林創生協議会、相模原市立青根小学校

日 L東(昭)⑫、友谷①、高橋③、柏倉④、佐藤⑤、滝澤⑤、稲辺⑤、有坂⑧、齋藤⑧、内野⑨、高橋⑨、橋本⑩、上田⑩、山崎⑫、松石⑬、水野⑭ **研** 羽鳥⑭

今回は、募集人員100人に対し参加者は、40人と少なく3班構成となり、各班インストラクター5人体制となった。

現地に10時頃到着し、バス駐車場からは1分の現場であった。焼失した青根小学校の裏山の学校林の整備で、1班は、竹林整備、2班と3班は、展望台の除伐作業であり、むし暑い日であったが体調不良者もなくほぼ目標を達成した。

用具の回収方法を参加者が用具箱に返すのではなく、班インストラクターに返す方法に徹底したところスムーズに全数回収に成功した。これは、用具運搬車の方が参加者からは、受け取らない協力が必要です(班毎にインストラクターが用具運搬者に返す方法です)。

(記 東 昭一 ⑫)

◆ 横浜市立中川西小学校 自然観察

日 9月5日(火)12::30~15:30、晴れ

場 愛甲郡愛川町半原 県立愛川ふれあいの村

参 小学4年生102名 教師9名

日 L西出⑫、島岡③、小野⑦、渡部⑦、有坂⑧、小沢⑨ 村井⑨、谷川⑪、松石⑬、真部⑬

別の場所で午前中のプログラムを終えた子供たちは、暑い中にも関わらず元気よく愛川ふれあいの村に到着。

入村式までの間、村内で自然観察をしながら植物や生きものたち、森の働きなどについての体験学習を行った。前半の1時間は、木ラリーのうちの10本の木にインストラクターが1人ずつ待機し、10班に分かれた。

子供たちが探しあてて到着したときに、その木についての説明を行った。時間内に見つけられない木もあったが、地図を見ながら自分たちだけの力で木を探すという難しい課題に一生懸命に取り組んでいた。

後半の1時間は、各班に1人のインストラクターがつき、一緒に歩きながら森についての講話や植物の説明などを行った。前半も後半も今日の一番人気は何といっても大きな実をつけた存在感たっぷりのクリの木。クリ拾いに大きな歓声と笑顔がはじけていた。今日の体験が森や自然を楽しむきっかけになってもらえれば嬉しく思う。

(記 真部 幸枝 ⑬)

◆ 県民参加の森林づくり 下刈・木工細工

日 9月9日(土) 9:00~15:00、晴れ

場 南足柄市内山 県立21世紀の森の成長の森

参 13名 (全員 男)

スタッフ 21世紀の森 杉崎所長 **看** 青木様

日 L上宮田⑪、鈴木⑤、小清水⑤、大道⑥、永野⑥、水口⑨、黒川⑭、鈴木⑭

開成駅よりメンバーの車3台にて分乗し21世紀の森へ。爽やかな天気です9時より受付開始。

募集予定が50名で申込が20名、当日の参加は13名となった。人数が少ないため、横一列で山に向かい作業エンドラインまで下刈りを進めた。

ベテランと新人がいたため、刈るスピードの違いが大きかったので、途中で編隊を再構成して調整した。指導の時は、やさしく言う・・・本日、実感させてもらった収穫です。



予定時間まで少し余裕があり作業ラインをすこし拡大し無事作業が終了。カマの切れが悪く、作業前に研ぐのが良いのではという意見と、根本的に研ぎをした方が良いのではという意見も出た。途中からは気温も上がり、早めに休憩、水分補給を促した。

昼食後、以前、植林したご家族(夫婦+幼児3名)がたまたまいて、植林した場所を見たいとのことでメンバーと一緒に植栽地へ。見晴らしも良く、記念写真を撮り大変満足したようでした。

「君がお嫁に行く頃は、あの木もあんな大木になっているよ・・・」 風と時が静かに流れた一日でした。

(記 永野 潔 ⑥)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

森のめぐみの掲載は、今月号はありません。次回12月号になります。

森のめぐみ シリーズ

やどりき水源林ミニガイド

10月のトピックス

『燃える秋』になる前の動植物です。



上:タコガエル



右:ツルニンジン

(10/9 林道コースにて撮影)

11月の水源林

秋真っ最中です。紅葉や蔦、とても良い匂いの桂の葉っぱが落ちています。

「森の案内人」情報

案内人がご案内します。案内と事故保険は無料です。

- 実施時間:毎週土曜・日曜・AM10時・PM1時、1~2時間程度
- 集合:水源林入口ゲート前
- 内容:森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料
- *10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ:(公財)かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255 FAX:045-412-2300
- ホームページ:<http://www.ktm.or.jp>
<http://ktm.or.jp/contents/event/h27/yadoriki/27.html> E-mail: midori@ktm.or.jp
- やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35~40分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

**箱根町立森のふれあい館 特別展
箱根の生きもの~変化する動物・植生~**

開催期間
H29.10/1
~ 3/11



変化することがないように見える箱根の動植物は、長年の継続した調査により、環境の変化や外来生物の侵入によって、実は大きく変化していることがわかりました。
写真パネルや剥製などで、箱根でみられるようになった動植物を紹介します。
〒250-0521 足柄下郡箱根町箱根 381-4)
TEL:0460-83-6006 FAX:0460-83-6003
e-mail:mori-fureai@junocn.ne.jp

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・読者の皆様から広く原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>
松本 保

Mail: matsutamori@jcom.zaq.ne.jp

Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり

Mail: s_akasaki-k_instructor@live.jp

Tel: 090-6150-6173

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037 横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先: 090-7962-3168

Mail: matsutamori@jcom.zaq.ne.jp

【別冊】黒川 敏史

〒247-0066 鎌倉市山崎 2273-1-515

Tel: 080-5477-2206

Mail:

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊はCCを】福島 正治 (事務局長)

〒214-0006 川崎市多摩区菅仙谷 3-1-1-204

Tel/Fax: 044-944-9423

Mail: fukky52000@yahoo.co.jp

原稿は随時受付けています。

森のなかまは過去号もご覧になれます。
(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当: 井出恒夫)

編集後記

★洗濯物が洗えない、乾かせない毎日が続いていて、ほんと困っております。早くお天道様を拝みたい…

(赤崎)

★「虫の声が急に静かになったと思ったら、突然の冬!天高い秋は何処に行ってしまったのでしょうか。従来の季節感が壊れ体調がついて行きません。」

(菌田)

★秋雨前線と台風の影響で、10月下旬の野外の活動はのきなみ中止となり、ハサガけの稲は乾かず、作業が後ろ倒しにたまっていきます。でもそのおかげで編集の時間が取れました。

(黒川)

★今回は、たくさんのマニュアル。「わあ、多い!!」と思わずにじっくり熟読しなければ。

(吉田)

★台風21号は Big Typhoon となりました。森、山が心配です。やどりきは大丈夫でしょうか。また、各種活動が中止になりました。会報のネタ不足になるのが心配です。

(松本)

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 松本 保
事務局: 福島 正治
広報部: 大塚晴子 赤崎さほり
小川和恵 菌田栄哉
黒川敏史 吉田郁夫
支援: 伊藤恭浩 大原正志 江頭淑子

松田キラキラフェスタ (イルミネーション)

開催期間: 11月下旬~12月下旬 松田山ハーブガーデン園内

(松田山ハーブガーデンHP) <http://www.seibu-la.co.jp/matsudayama-hg/>

0465-85-1177(ハーブガーデン)、0465-82-0367(テレフォンサービス交通案内)

松田山がLEDのイルミネーションに彩られると、恒例の松田きらきらフェスタがいよいよスタートします。夕闇せまる町から松田山を見上げると、巨大なクリスマスツリーにみためたハーブ館(イルミネーション)が浮かび上がります。会場までの沿道にもLEDが飾りつけられ、西平畑公園までの道を光が導きます。日が沈んだ後、約18万球のイルミネーションに彩られた西平畑公園のきらめきと足柄平野の夜景が溶けあうと光と闇の夢幻空間が広がります。

